

## 令和4年度 利府町民会議 議事録

日 時: 令和5年3月18日(土) 午後2時～午後3時30分

場 所: 利府町役場2階 会議室

### 【町長講話】

これまで座談会を開催してきたときに、論点が集約されてきたので、皆さんに紹介し、一緒に未来について考えていけたらと思う。

座談会などで主に出てくる話題は二つある。一つは公共交通である。どのように充実させていくのかということが大きな議論のポイントである。公共交通網については、昔から利府に住んでいる方は、便利になったと思う方もいれば、都市基盤が整ってから利府に来た方からは、まだまだ足りない、もっと便利になるはずだと意見が拮抗する。私はまだまだ改善、伸びしろがあるものだと思っているので、今回も公共交通に関するアイデアやお話を聞けたらと思う。

二つ目は、中学生からご高齢の方から必ず言われるのが、「カラオケ屋を作ってほしい」ということである。企業と話をしてみると、カラオケ人口自体が減っていると言われる。カラオケ大手企業が次々と撤退している事実がある。もし利府町にカラオケができたときに、皆さんが想像するほどの集客力や定期的な利益が上げられるのかどうか、企業側も商売のため慎重になっているところがある。

以前にイオンモール新利府北館にカラオケの話が出たが、躯体が老朽化しており断念した経緯がある。町としても大いに主張しているが、まだしばらく時間がかかるようである。

利府町の皆さんと協働でまちづくりする際、利府駅前の tsumiki が大変大きな力を発揮してくれている。近年注目されているのが、高校生の若い世代が町おこしや活性化について活躍をしている。彼らの着想したアイデアで、昨年浜田の浜まつりの時に、スカイランタンを夜空に向かって打ち上げてくれ、地域活性化がどんどん起こっているということを紹介させていただく。

創業塾に参加した人が「こ・あきない市」でハンドメイドのものを持ち寄り開催している。イオンモール新利府は町と積極的にコラボしてくれる。通常、イオンモール新利府南館にあるライブスクエアを利用するとなると、高額な利用料が発生するが、利府町が共催・後援で入ると非常に安価で利用できるようになる。町民活動や地域活性化するために使ってくださいというイオンさんの姿勢にはとても助かっている。

利府町の特徴は何なのかとみてみると、利府町は何ととってもスポーツの町ではないか。利府は国体から始まり、日韓ワールドカップ、インターハイ、オリンピックも開催された町である。

巨大なスポーツイベントが利府町で開催されているが、利府町が力を入れているスポーツ文化

は何かと問われると実は無い。新しいスポーツ文化を生み出したいということで、「スポーツの町」を一步進めて「モータースポーツの町」としてラリー大会を開催させてもらった。

また、「スポーツ流鏑馬」についても町の新しいスポーツ文化にしていきたい。

東日本大震災の時に被災者を一番励ましてくれたスポーツは何かと考えると、女子サッカーのFIFA ワールドカップでの優勝だと思う。決勝で被災者を励ましたいということで力をふるって勝利を勝ち取った。その後も次々と日本人選手の活躍と続いていった。

女性アスリートと利府は縁があり、東京オリンピックサッカー競技では女子サッカー競技が多く開催された。スポーツの町として女性アスリートを応援するというのは他の自治体がやっていないことなのではないかと思う。これを推し進めていくことは、独特のスポーツの町として、個性が輝くのではないか。女性アスリートが結婚・出産・育児を乗り越えてスポーツ人生を全うできたならば、これが社会的に女性活躍できる町。女性に優しいということは高齢者・子ども・男性にも優しい町ということになる。スポーツの町ということを経験しながら発信・実践していくことで独自のまちづくりができると考えて、スポーツの町というのを組み立てていきたい。

しかし、これらを進めていくには最終的にお金が必要で、どうやって集めるのか。利府町はふるさと納税に力を入れている。以前は数百万円のふるさと納税が今は総額4億円いただいている。たった4億円と思われるかもしれない。例えばイオンモールの固定資産税は数億円程度。4億私たちの力で集めたのは大企業を1つ誘致したのと同じである。まだまだ開拓の余地がある。今日の新聞記事に「個人現貯金最高1,116兆円」という記事があった。かなり多くの方たちが資産を持っていて、そのほとんどが首都圏にいる人たちである。その首都圏の人たちに、よろこんでお金を使ってもらうかが日本経済の課題で、その一つの手段がふるさと納税である。ふるさと納税全体でどのくらいお金が動いているかという、約 8,000 億円しか動いていない。まだまだ市場の開拓する余地がある。より利府町を宣伝して、利府町がどこにあるのかというのを皆さんに分かってもらう。日本経済新聞に利府町の記事が掲載された。日経新聞に注目される町にやっとなった。それがどういう結果に出ているかという、民間が出しているランキングに、富谷市に次いで第2位にランクインしている。

利便性が良いと言われる仙台市を抜いて利府町がランクインしているということも、紛れもない事実である。

そのうえで、「あなたが“利府町長”ならどのようなまちづくりを行いますか」ということで、各世代、老若男女、色々な意見が出ると思うので、最後にぜひ教えていただきたい。

## 【ワークショップ】テーマ:これからの利府町のまちづくりについて

### <A グループ>

#### ○公共交通について

- ・地域の公共交通の利便性について、地域差・時間帯による差・平日と土日の差がある。
- ・地域的に不便のところは公共交通のなさが大きな問題になっているが、それを補うために、AIを活用した自動バスの活用を呼び込んではどうか。
- ・町民バスの路線を3路線化すると、ミヤコーバス路線の盲点となっているところを補うようにしてはいいのではないか。
- ・町民バスのほかに、デマンド交通の活用でより個人ごとのニーズにあったバスの運行を準備してはどうか。
- ・70歳以上の方にクーポンを配布しているが、その制度をさらに進めて、バス停まで遠い、目的地がバス停から遠い、足腰が弱いという方向けの「タクシークーポン制度」を行ってはどうか。
- ・電車の通勤時間帯の本数をさらに増やすために、新幹線車両基地から仙台駅に向かう回送新幹線を通勤用に使えるよう JR 東日本と交渉してはどうか。
- ・レンタサイクルを導入して利府駅からイオン・グランディ間で活用してはどうか。また、多賀城市・塩竈市と連携して加瀬沼公園をさらに開発を進め、加瀬沼周囲4kmに遊歩道を整備して学校行事を誘致したり、加瀬沼公園を拠点に町内各施設に移動できるようレンタサイクルを整備したりしてはどうか。

#### ○まちづくりについて

- ・若い人たちを呼び込むために、東京などにある大学や専門学校を利府に誘致してはどうか。利府に通う人たちが増えれば、自ずと公共交通の改善に繋がっていく。
- ・利府駅から葉山の番ヶ森まで、昔の鉄道敷を利用し、自転車道を整備してはどうか。利府駅にレンタサイクルを整備すれば駅前の活性化になる。
- ・子育て世代を中心にした政策、若い方が利府町に住んだ際に、5年間分の固定資産税や住民税を財源として、移住給付金を導入してはどうか。
- ・利府はチャンスの町であり、tsumiki をはじめとして起業しやすい環境をつくり、赤ちゃんハイハイレースやスポーツ流鏑馬で認知を高め利府を有名にすることで、チャンスを増やしていけるきっかけになるとよい。

## <B グループ>

### ○公共交通について

- ・利府には新幹線車両基地があるので、ここから一般の方も新幹線に乗り入れが駅としてできると便利になる。企業関係者の人からも、仙台に行かなくて新幹線に乗れるようになると利便性が上がる。
- ・九州新幹線(南博多線)では、駅を先に作って乗り入れることを前提として車両基地を整備した。東北の場合は既に車両基地があるため、セキュリティ上の問題で出来ないと言われているが、そこであきらめるのではなく、新幹線から新利府駅に降りられるように、町民や議員などを巻き込んで住民運動を起こせば実現する可能性はある。
- ・利便性が上がれば、様々なところに波及し、利府に来てみようとする人が増え、利府高校に通いたいとなる子たちも多くなるのではないか。
- ・新利府駅が一般の人が利用しやすいように屋根を設置したり、歩道を広くしたり、利用しやすい駅に改修してほしい。
- ・新利府駅からイオンモール新利府南館へ直通的の通路を作るとなると300m必要。東京ドームから水道橋駅までと同じくらいの距離である。改札口を通路出口に設ければセキュリティの問題も解決するのではないかと提案したこともある。実現すれば一般利用しやすい駅になり、イオンの従業員の方もわざわざ利府駅まで行く必要がなくなる。
- ・昔の山線時代の線路跡を利用した BRT の活用により、利府駅から葉山・赤沼からの移動が便利になり、渋滞の緩和に繋がる。津波で沿岸部の被害を考えると、内陸部に1本走っているとよい。
- ・高齢者の足として町内を循環できるバス、自動バスが頻繁に回っている。
- ・コンサートやイベントが開催できる環境が整っており、町外から利府町に来るときに、新幹線で来ることができると売りにできれば、すごいインパクトになる。
- ・イオンやリフノスなど町内で行きたいところはあるが、バスで移動すると町内間の移動が不便。町内を回る循環バスがあるとよい。
- ・リフノスの図書館に行きたくても行けない人のために、移動型の図書館などがあるとよい。
- ・イオンモール新利府やコンサートに来た方が新幹線を利用して利府に行けるようになるとよい。

### ○墓地について

- ・首都圏では合葬墓の需要が高まっている。合葬墓では施設管理者が管理してもらえるため。維持管理の面で安心である。

### ○まちづくりについて

- ・カラオケをやるとなると町外に出向いている。利用人数が年々減っているというが、それはコロナ禍が原因で利用者が減っただけで、これからまた少しずつ回復していくと思う。
- ・マイナンバーカードを利用して、病院・薬局・保育園など様々な施設でお手伝いをしたり、利府

町で移住や出産したりすればポイントが付与されるような制度があれば、マイナンバーカードの普及にも繋がるのではないかな。

- ・赤ちゃんから高齢者まで住みやすい町を作れるように、まちづくりができていけばいい。
- ・インフラの整備は民間企業が参入するということもあり採算が取れないため、中々進まないところは、どこの自治体も同じ課題を抱えている。
- ・愛知県豊田市のように本社を利府町に置いてくれる企業や、自動運転のような新たなテクノロジーを生かせるようなまちづくりが出来たら面白いのではないかな。
- ・山や海自然环境や利府梨の生産などに町としてもバックアップできるような体制ができるとうい。
- ・大河原町の国道沿いは、昔たんぼだったところに商業施設やアパートが立ち並んでいる。利府でも利府街道沿いが賑わうよう、皆さんが楽しみやすいようなまちづくりをしていけばいい。
- ・便利にするものと今あるものをいかに活用するかというところのバランスが大事ではないかな

#### 【町長総評】

皆さん一人ひとりが「利府町長なら」でディスカッションしてもらったが、何を意図しているかという、自分事としてまちづくりに関わってほしいということ、それがひいてはシビックプライドの醸成、「自分達の町は自分達で作るんだ」という強烈な意識を育むことのプロセスだと思っていただきたい。ベースにあるのは、利府町の皆さんは世間からは“仙台町民”と言われ、利府に住んでいるけれど仙台市の方しか見ない、いわゆる働いている場所しか見ていなくて、利府は寝に帰る場所という感覚の方が多く感じる。その自分の住んでいる町を自分事として捉えるにはどのようにしたらいいかということで、町民会議や座談会を開催している。皆さんから沢山のアイデアが出てくるとするのが嬉しく思う。皆さんこれから町で生活していくときに「私が町長だったら」という風に考えるという、気づかない変化があると思う。

「こうしたらいんじゃないか」、「こうしよう」というところで、例えば tsumiki の町民活動がどんどん盛り上がっていく、その中で議員として手を挙げてくれる人がいるかもしれないし、そのことで議会が活性化されてまちづくりがまた盛り上がるという好循環が生まれていけばいいと思う。

県に町内4か所を宅地造成・工業団地にしたいということで市街化区域に編入してもらおうよう頼んでいる。しかし、許認可は県であり、一部の役人の感覚で人口減少の流れに任せてもいいんじゃないかという前提でいるため、東北は急激に人口減少が進んでいる一つの原因である。

何故人口を増やしていきたいかというと、人口を増やそうとしているから、企業も人も来てくれるということ。利府町に進出した理由は「人口が増えているから」である。人口減少社会の中であって人口が増えているから企業が来る。企業側の論理も私たちは見過ごしてはいけない。

グランディで毎週末のようにコンサートが開催され、若い人たちが来てくれているのにそのまま帰ってしまう。利府町にどうやって皆さんに貢献してもらえるか。お金を落とす場所をどこに作っていくのか、年間グランディには100万人以上の方が来ている。一人に1,000円でも使ってもらえれば相

当な額の税収が上がるはず。でもそれがまだ出来ていないというのが、私たちの町の大きな課題である。

公共交通についても、大胆に言うと、利府駅ってありますか。利府駅があるために私たち無駄な苦勞をしていないか、利府駅からの乗降車人数を上げたいためにピストン輸送をしている。岩切駅の方に運んだ方が住民とってもいいはずではないか。利府駅を維持するために莫大なエネルギーを消費してないか。これは駅の廃止というわけではなく、博多南駅のように新幹線車両基地を拡張していく中で、新幹線の乗り降りが利府で出来れば、利府駅は新利府駅と繋がることになる。

浜田地区にある、東北本線と仙石線が一番近接する場所で、乗り換えの駅があれば、駅を中心に町が広がっていけば、もっと住みやすい町になるんじゃないか。そうすれば住みたくなる場所になるのに、特別名勝松島のため人が住めない。でも荒れ放題に荒れている松島の地域になっている。これはおかしくないかというのを文化庁に伝えて、ようやく駐車場を整備できるというところに至った。同時に税収を挙げて駐車場や遊歩道を整備するための費用を町で予算化しているところを皆さんに知っておいていただきたい。

最後にそれでやりましょうと決めるのは住民である。住民の皆さんがやろうと言わないと進まない。皆が発展するのはいいが、個別具体例になると反対となる。これが住民の皆さんとのコミュニケーションの難しいところで、それをどうやって乗り越えてまちづくりをしていくかが面白いところ。最後は予算ではなく人の気持ちである。

皆さんが利府町長ならどう考えるかという自分事としてディスカッションしていただいた。

利府町はポテンシャルがとてもあるということを今回参加した皆さんと共有して総評としたい。

【了】